

令和5年度第3回「稚内市子ども・子育て審議会」議事録

○日 時：令和6年3月26日（火）18時30分～19時30分

○出席委員：江川 善次 会長、阿部 光宏 副会長、小林 伸行 委員、竹田 俊成 委員、
鎌田 佳恵 委員、沓掛 美弓 委員、竹田 由貴恵 委員、白川 哲也 委員
計 8名

○欠席委員：本山 哲司 委員 計 1名

○傍聴者：なし

○事務局：教育部長 秋山 淳一
こども課長 荒山 朋実
生活福祉部保健事業担当主幹 堀 昌恵
子ども・子育てグループ 主査 守谷 愛
主査 牧野 竜二
主任 坂田 朋也
主任 津田 祐也

○オブザーバー：株式会社ぎょうせい 研究員（ニーズ調査 受託事業者）

1. 開会

2. 挨拶

○ 秋山 教育部長

本日は、ご多忙にもかかわらず稚内市子ども・子育て審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の議題は来年度策定予定の子ども・子育て支援事業計画のもととなるニーズ調査の速報結果、そして市内幼稚園・保育園の定員変更が主なものとなります。

ニーズ調査からは本市の子育て世帯の現状が見て取れます。委員の皆様におかれましては、限られた時間ではありますがご審議のほどよろしくお願いいたします。

（続いて、江川会長から挨拶があった。）

○ 江川 善次 会長

春めいてきましたが、市内の学校ではコロナ、インフル、はしかなども流行っている様

です。さて、昨年の出生率が減っていることに驚いています。コロナの影響があったとしても、今後この状況が続く可能性があると考えたとき、よりよい計画を作るためには今回の調査をしっかりと分析して、策定を進めていく必要があると考えています。委員の皆様におかれましては、ご協力お願い申し上げます。

3. 議事（議長：江川会長）

(1) 第三期稚内市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果（速報）について

事務局及び株式会社ぎょうせいがニーズ調査の速報値を報告したのち、質疑応答に移った。

○ 江川 善次 会長

ウェブ回答が半数を超えていることには時代を感じます。それぞれの課題、想定内のことかもしれませんが、例えば今年はインフルで学校閉鎖などがあって、その度に親が仕事を休んで交代で子どもをみていたと聞きました。10日間ぐらい学校に行けなかったこともあったようです。その辺りの不安はあるのではないかと。学校現場はどうですか。

○ 阿部 光宏 副会長

調査と直接関わらないかもしれませんが、今年度はインフルや暴風雪による臨時休校がありました。そうすると家庭で過ごす時間が多くなります。コロナでタブレット整備などのオンライン環境が進んだので、子どもたちとオンラインで授業をしたり、自宅の生活状況を把握していました。学校と家庭で、ICTを利用した連携ができました。一方、苦慮したのがWi-Fi環境です。それが整った家庭とそうではない家庭があり、十分に使えない家庭への配慮が必要になるかと思います。

○ 江川 善次 会長

コロナによってオンラインで速攻性のあるつながりができているのは、不幸の中の幸いかと思います。このアンケート調査からも（学校にいけないときの）親の不安が見えるかなと思います。

親も子どももコロナを経験して人と相談をすることが減っているのではないのでしょうか。いじめがあったら手紙をくださいという取り組みをしていますが、年間一つか二つしか来ないんです。中学生に聞いたら、「はずかしいから書けない」と。LINEで相談が入っていますが、親も子どものために人と相談するということが弱まってきているのかなど。都会ではPTAもなくなると聞きました。

○ 白川 哲也 委員

自分もPTAをしていますが、コロナになって、役員会もできなく集まれなくなりました。子どもも親も、人とのつながりがなく、誰が誰かわからないという状況がありました。そのため、今後は集まりを復活させ、横の環を拡げていきたいと考えています。

○ 江川 善次 会長

新しい計画を作るキーポイントがこの調査にあると思います。昔は井戸端会議があって、笑顔がありました。だんだんそれが無くなってきました。人と人のかかわりが怖いのではないか、何か言われるのではないかと考えているのではと思います。先輩からの知恵を伺うというか、そのようなかかわり方が弱まっているということに対する施策、方策があれば良いですね。子育ての町なのに笑顔のない街になるのが悲しい。このアンケートから何かが始まるようにしたいです。

○ 小林 伸行 委員

大学に関することになりましたが、学生が参加すべきイベントがあったとき、ドタキャンを良くしてしまいます。相手に係る迷惑をあまり考えられていないように思います。そのため、つながりが出来ても相手から切られてしまう。学生には悪気がないのでどう対応すれば良いか悩むときがあります。つながりの質が変わってきているのかもしれませんが。みんなが何か違和感を感じている間に、ギクシャクしてしまうという状態になりかねないと思っています。調査と少しずれるかもしれませんが気を付けないといけないと考えています。

○ 江川 善次 会長

教育相談所に聞くといじめは顕著でないが不登校が増えている様です。合計するとクラス以上の人数です。なぜ増えるのか。認めてほしい、わかってほしいなど、色々な思いがあるのかなと思います。話が色々な方向に飛んでしまいますが。

○ 竹田 由貴恵 委員

先日、不登校の会議をしたときに、つばさ学級の定員が増えているということで、中学生になって、だんだん学校に来なくなる子が多いようです。つばさ学級の情報があれば、親と相談して対応ができるが、それがないとその子の道が途絶えてしまう。小学校のうちからつばさ学級があることを親や子供たちにも知らせていけるといい方向に行けるのではないかと話をしています。

○ 江川 善次 会長

居場所を見つけるというところに手を差し伸べたいですね。先ほどの病気で子どもを誰が診るのかという話題もそうだが、そのような方を笑顔で迎えたいです。

○ 竹田 由貴恵 委員

この会議など、子育てに関係している場合は、様々な相談できる施設や機会があると分かるのですが、一般の方で困っている親御さんは専門的な場とのつながりが薄いと感じました。

○ 江川 善次 会長

学校やカウンセラーも情報はあるのですが、一人ひとりの家庭と繋がれるかはもう一押しかなと思います。そこに相談したら終わりだと思わないでほしい。

○ 竹田 由貴恵 委員

不登校であっても、その子の将来や夢に向かうために家でやっておくべきこと、それを教えてくれる場所など、インターネットばかりではなく、人とのつながりの中で、その子

に必要な情報を伝えていければよいと思います。

○ 江川 善次 会長

一つ一つのことは深く入りませんが、調査に対する願いなど、いづらか伝わったかと思います。事務局から何かありますか。

○ 荒山 こども課長

この結果はあくまで速報値ですので、調査の分析がまとまりましたら郵送をさせていただきます。そこから読み取れるものも多いと思います。お話のように、人と話すことが得意ではない世代が出てきたと思います。約束をしたくてもお電話に出てもらえなく、メールでやり取りしたいという方もいます。コミュニケーションの仕方が変わってきていて、昔のやり方どおりできなくなってきた状況も見られます。デジタルを利用しながらも、どこかと繋がっているというものの、心の拠り所が作ればいいのかと思います。市ではえーるというサイト、アプリを運用していますが、その中でも広く情報発信ができると思いますので、積極的に進めていきたいと思っています。

○ 白川 哲也 委員

放課後の過ごし方です。東学童保育所の保護者会長をやっていましたが、希望者が増えて入れなかったということがありました。施設を工事することは難しいと思いますが、何か案はありますか。

○ 荒山 こども課長

学童については児童一人当たりの施設の敷地面積が決まっていますが、東学童は同じ場所にある活動拠点センターの部屋を借りて定員を増やしています。児童館については定員がありませんので、ランドセル登録という、児童が学校からそのまま児童館に来れるという対応もしています。中央児童館・学童保育所については、4月から中央小内に移します。昨年の夏は久しぶりに児童館祭りなどイベントも行いました。コロナ禍では遊ぶ場所がなかったのもっとイベントをしてほしい、子どもたちが遊べる、楽しめる場所というニーズは把握しています。

○ 株式会社ぎょうせい 担当者

現在は速報値なので、これから詳しい分析をしていきたいと思っています。報告書は120ページぐらいになる予定ですが、改めて計画策定に反映していきたいと思っています。

(その他、特に意見がなく、次の議題へ移った。)

(2) 特定教育・保育施設の利用定員（令和6年度）変更について

事務局が一部の幼稚園の定員を変更（減少）することについて報告をしたのち、質疑応答に移ったが特に意見はなく、了承された。

4. 閉会

以上